

基本的な考え方

本校では、キーコンピテンシーを育成するため、次の3つの力を育成する単元構成を図っている。
 (1) 相互作用的に「道具」※を用いる力。※「道具」とは既習事項を活かしたり、表現方法を選択したり、問題解決のためのスキルを活用することである。
 (2) 異質な他者と協力、対話できる力、
 (3) 真正の文脈に位置づけられた必然性のある課題を自ら解決(自律性)しようとする力。
 この3点を単元構成に位置づけるとともに、誤答分析により、学力の課題を解決することを試みている。

研究ベース

単元構成は、「平成25年度、平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を基本ベースに、構成した。

前提となる学力の課題

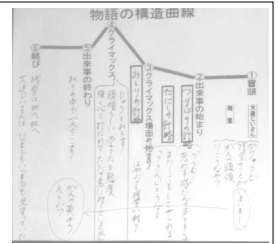
平成25年度全国学力・学習状況調査国語B3「本や文章を読んで推薦文を書く」新見南吉「ごんぎつね」において、全国の通過率は【設問一】対象や理由を捉えるア：50%、イ：45.4%、ウ：44.8%、【設問二】2つの推薦文を読み、読み方の違いを捉えるが52.1%であった。

自律性(動機づけ) 真正の文脈

【言語活動の位置づけ】新しくリニューアルした図書館の紹介コーナーに椋鳩十の他の作品を読み、心情描写や情景描写に着目し、主題をキャッチコピーとして表したポップを展示することを学習のゴールとして設定した。その際、読み手の読書意欲を喚起するものになるよう、表現を工夫させることとした。

【私の一押しを紹介しよう～「大造じいさんとがん」～の単元計画】

- 1 ポップについて知り、単元の学習を見通し、学習課題を設定する。(1)
- 2 「大造じいさんとがん」を読む。
 - ・教材文を通読し、初発の主題を考える。(1)
 - ・物語の構造を捉え、場面ごとに大造じいさんと残雪の関係や心情の変化を読み取る。(4)
 - ・登場人物が変容したところについて交流し、最終的な主題を考える。(2)【本時】(2/2)
- 3 おすすめのポップを作成する。
 - ・ポップを作成し、友達の作品と交流する。(2)



導入

前時までの学習を想起し、山場で大きく変化したものは何か、そして作者が伝えたかったことは何か、自分の意見を確かめ、本時の対話の根拠とする。

道具 (既習事項)

把握課題

・学習課題「作者がこの作品を通して、どんなことを伝えたいのか、根拠をもとに考える。」を把握させる。

協働解決(同質)

同じ考えをもつ者とグループを編成し、主張と根拠を確かめる。(協働)

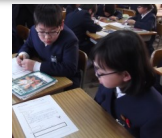
【勇氣】
・救われなければならない、仲間の姿があるだけ

【正々堂々】
・ひきょうなやうな方でやっつけたくない。堂々と戦おう。

【プライド】
・じいさんを正面からにらみつけた。いかにも頭領らしい。

【対等】
・ただの鳥に対してしているような気がしなかった。

【友情】
・いつまでもいつまでも、見守っていました。



協働解決(異質)

異なる考えをもつ者と、異なる主張と根拠を受容し、自らの主張と比較する。(協働)

・私は、自尊心や自負心、ほこりといったキーワードが浮かんできました。そのため、主題のキーワードは「プライド」と設定しました。交流の時、友情とか正々堂々という意見も聞きましたが、やはり、「最期の時を感じてせめて頭領としての威厳を傷つけまい」と努力しているようでもありました。」の教科書の文章から、私は、「プライド」が作者が伝えたかったことだと感じました。
 ・大造じいさんが、残雪のことを初めはいまいましたと思っていけれど、後からは「がんの英ゆう」と言っているので、私は、最初「心の変化」が主題のキーワードだと思っていました。けれど、友達と交流しているうちに、「堂々と戦おうじゃないか」と大造じいさんが正々堂々と戦うことの大切さに気付いてきたので、キーワードは「正々堂々」に変えました。



個人全体

・他者の考えと比較検討し、最終的な自分のキャッチコピーを考える。
 例) 狩人たちから小熊を守る勇敢な母親の物語

振り返り

・根拠をもとに自分の考えを明らかにすることができたか振り返る。(自己評価)
 ・作者が他の作品を通して、伝えたいものは何だろうかとか投げかけ、次時へとつなげる。



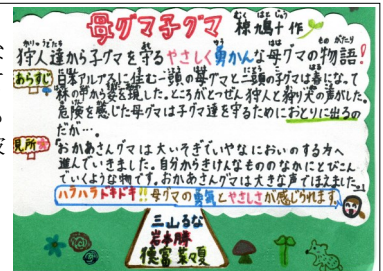
並行読書



課題解決のための実践

【言語活動】

児童は、「母グマ小グマ」や「金色の足跡」など、自らが選択した椋鳩十の作品を並行読書として読み進めた。主題を読み取り、ポップに表現したものを図書室の円形テーブルに展示し、全校児童に披露した。



学力の課題の解決結果

【設問一】対象や理由を捉える：ア：64%(全国50%)、イ：55%(全国45.4%)、ウ：39%(全国44.8%)、【設問二】2つの推薦文を読み、読み方の違いを捉えるが75%(全国52.1%)であった。単元末で物語を推薦するという目的意識を持たせること、物語の「構造」や「キーワード」に着目させた指導が一定の効果を発揮した。引き続き、登場人物相互の関係、表現叙述、意図や作者の背景に着目した指導が必要である。